

「がんばらないために工夫してきた人」が、いつだって時代を作ってきた②

長野県で「パンと日用品の店 わざわざ」を経営している平田はる香さんに、「がんばりたくない人間の、がんばりかた」について執筆いただきました。

2009年に長野県東御市に「パンと日用品の店 わざわざ」を開業し、2種類の食事パンと、2000種類を超える日用品を取り扱う店を運営しています。2017年に法人化して現在は20名ほどが働く会社となり、昨年度の年商は2億6000万ほど。文字通りがんばり続けてきましたが、正直がんばるのめんどくさいなって最近は思っています。

これからは、「がんばらないために」がんばろう

まずこれから一番に淘汰されるのが、所属することが目標だった人の仕事です。

大学や会社に入ることが目標だった時代もありましたが、これからは、ミッションを持って働く人だけが必要とされるようになるでしょう。仕事は細分化され専門職が必要とされるようになっていきます。うすくさまざまな業務ができるといった人の仕事は、代用されていく可能性が高いです。

なぜなら、その仕事の生産性が低いからです。低いものにコストはかけられないので、利益を高めるためにテクノロジーで代用されます。それが進歩です。

都会に住んでいないので使ったことがないですけど、Uber Eatsとかすごいですよね。店の出前の機能だけを専門化させると、大きなビジネスになるのですから。「あれもこれもできますよ」という会社は、そういった専門機能に仕事を受け渡すことになりそうです。

現在も仕事は確実に変わっていますが、同じ仕事のやり方を続けている人がたくさんいます。いくら手の動きを早くしても、数分の時間短縮だと気付かない人がいます。

それよりも、周りの意見に耳を傾け、よいサービスの真似をして、さまざまなパーツを集めてよりよくなる手段を思考することが、画期的な効率化や新しいサービスを生み出します。

これからは、がんばらないようにするために、がんばるんです。いや、これまでだってそうだったんです。がんばらないために工夫してきた人がいつだって時代を作ってきたのです。

がんばらないために、あきらめる

さて、ここでわざわざやりつつそんなことを考えてきたはずなのに、いつの間にかわたしもがんばってしまいがちです。わたしは今年度、がんばらないために、2つのことをあきらめました。物流と人事です。それで、今はこんなことに取り組んでいます。

長野県に雇用を作るという観点から、かたくなに自社で倉庫を持ち自社から出荷するという物流を作ってきましたが、やめることにしました。外部倉庫に、まずは一部の商品出荷管理を委託する方向で現在検討中です。

出荷に関するテクノロジーの遅れを自社でカバーすることができず、誤配送をゼロにすることがどうしてもできませんでした。また、商品在庫管理の観点からも、外部倉庫には劣ります。潔くあきらめ、外部に委託します。

会社として自由に働く環境を与えることをある程度あきらめます。ペーシックインカム的の制度を加え成果報酬制も導入します。

人間が千差万別な思考を持っており、会社の考える自由が不自由になるケースが増えました。今まで明確にしてこなかった上下関係や骨格になるルールと組織体制を設定しつつ、社内でカスタムできるしくみを作ります。

これまでの制度は自由度が高すぎて解釈に幅があり、個人の倫理によってなあなあになる部分が多かったです。今年の秋には新たな就業規則や社内ルールの確立を目指します。

結局、会社も人間も同じです。よい会社であろうとすることと、よい人間であろうとすることは同じなのです。わたしはわたし自

東北から元気発進！！ワクワク"夢実現"プロジェクト



仕事と生活調和推進企業として
ワーク・ライフ・バランスの実現を応援します

身が成長し続けよい人生だったと最期を迎えられるように、今日も働きます。

ということで、わたし今年も絶対にがんばらないですから！

毎年言ってる気がしますけど。今年こそ覚ええつたいに、がんばらないっつ。

平田 はる香：株式会社わざわざ代表

コロナウイルス感染者が未だに増え続けています。緊急事態宣言が発令された4月から雇用調整助成金を活用された企業も多いようです。解除されてからは徐々に申請件数も減ってきているようですが、ここに来て今 その余波が地方へとひそかに広がりつつあります。飲食店はもとより様々な企業で受注件数減少等による雇用の削減も問題視されています。禍中で気になる記事がありましたので、紹介します。

「このまま働かずに給料をもらい続けたい」コロナ禍新入社員の本音

新型コロナウイルスの猛威によって社会は大きく混乱した。中でも学生という立場から一転、社会に出たばかりの新入社員の新生活はスタートから壮絶なものになってしまった。コロナ禍の落ち着いた時期に社会に出た彼らは、いったい何を思うのか。新社会人たちの本音を聞いた。(清談社 鶴野珠子)

ほぼゲームざんまいでも給料は8割補償 働くモチベーションはゼロに…

入社以降、通常通り研修を受けていた1週間後に会社から自宅待機を命じられた。緊急事態宣言が発令されても何も言われなかったため、うちは通常営業なのかと思っていたが、ただ対応が遅いだけだった。研修担当者から「後で自宅待機中の課題を指示するから」と言われたが、その課題が指示されたのも数日後のことだった。会社のあらゆる面での対応の遅さを見近に見て、社会人生活への不安は膨らんだ。課題の内容も、指定した本を読んで感想文を書くという、学生の宿題のよう。その後自宅でリモート研修を2回受講。4月5月の2ヶ月間、ろくに働かずして給料が8割も支払われた状況に衝撃を受けた。と同時に「働くことへのモチベーションが完全になくなった」。課題と研修の時間以外はやることもないので、ずっとゲームをしていた。そんな状態でも給料がもらえるわけだから、仕事へのやる気なんてなくなる。『このまま働かずに給料をもらい続けたい…』と強く思うようになった。6月に入り会社は通常営業に戻った。営業という職種柄、リモートでの業務だけでは難しい部分が多く、毎日の出勤を余儀なくされている。「働かずに給料が支払われたのは2ヶ月間だけだったが、労働意欲が消えるには十分だった。恥ずかしながら『サボリぐせ』のようなものも身に付いてしまった。毎日満員電車に乗りながら、もっとラクに稼げる仕事に転職したいということばかり考えている。

LET'S 農業④ 20日だいこんとアスパラ菜、収穫！

今回は20日大根を収穫し、甘酢漬けにして頂きました。葉っぱももったいないので、炒めて美味しく頂きました。アスパラ菜はお浸しに。井戸やピザ釜も完成しました。

20日大根

畑の様子 (奥にはさつまいも)

井戸が完成

ピザ釜完成



東北から元気発進！！ワクワク"夢実現"プロジェクト



仕事と生活調和推進企業として
ワーク・ライフ・バランスの実現を応援します